

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年10月30日（月） 午後6時から8時まで
場 所	水木交流センター
出席人数	(1) 市 民 22人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計28人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>(質問) (水木学区) 1学級の人数は何人か。</p> <p>(事務局) 国・県の基準では小学1、2年生は35人、小学3年生以上は40人。</p> <p>(質問) (水木学区) 単学級のところは、学級の人数としては理想的なのではないか。</p> <p>(事務局) 理想とする人数は、人によって異なると思うが、30人くらいが良いという意見も聞く。単学級の中で更に人数が減っていくと、男女比の偏りが大きくなったりすると言われている。 クラス替えの効果にも期待して、日立市の基準はお示ししたようにしたいと考えている。</p> <p>(教育部長) 学級の人数は、自分が経験してきた環境で感じ方が違うだろうと思う。 アンケートなどを見ても、学校全体としては多い人数で、学級としては少ない人数というのが理想なのかなと思う。</p> <p>(意見・質問) (水木学区) 市の人口が5年後に15万人位になると言っているときに、子どもたちはどのくらい減ってしまうのだろうかと思う。 楡形小が29クラスなのは、統合された結果なのか。</p> <p>(事務局) 楡形小は、大規模団地開発の影響で人数が増えたが、今がピークで今後は減る見込みである。少子化以外にも、様々な社会的な要因で児童生徒数は増減している。 今のところ、大規模な開発行為の予定はなく、市全体としては、平成50年ごろに15万人程度になると推計している。市として定住促進のための施策も行っている。 既に基準を下回っている学校があり、向こう10年くらいを見越した計画を作るつもりで検討を行いたい。</p>

(意見) (水木学区)

統合の効果は分かる。統合して現れるデメリットもあるだろう。それについても十分に検討してほしい。

(事務局)

デメリットは、大きく2つあると考えている。1つは通学距離が長くなること。もう1つは地域との関わりが薄くなるのではないかとされていること。通学路の安全確保は最重要と考えている。

(質問) (水木学区)

既に基準に満たない学校の教員数は、表にあるとおりか。

(事務局)

基本的には、表のとおりである。一方で、教員の配置には加配制度があり、学校の事情によって教員の加配がある。原則は、全国の学校が、この基準での教員配置である。

(質問) (水木学区)

教員の配置には、現場の先生の意見は取り入れられているのか。

(事務局)

学校の現状は県教育委員会に伝えている。市教育委員会でも、学校訪問や校長面接などをし、県教委も学校訪問をしたりしながら加配する学校を決めている。現状をしっかりと見た上で決めていく。

また、現時点で基準を下回る学校が統合の対象ということではなく、“検討の対象”ということなので、御了承願いたい。

(質問) (水木学区)

日立市は南北で長く、坂も多い。統合すると地域が広がる。通学するための公共交通機関については、どのような検討をしているのか。路線や便数を増やすなど、バス会社などに働きかけをするのか。

(事務局)

いろいろな手法があると思う。既存のバス路線を利用する、スクールバスを運行する、あるいは新しい路線の運行をお願いするなど、いろいろ組み合わせて、子どもの負担にならないように考えていきたい。基本的には歩いて通学できるようにしたい。

(質問) (水木学区)

中里地区は常陸太田市と隣接している。中里小中に近い子どももいるだろう。市外から受け入れることは可能か。

(事務局)

中里小中学校は、近隣に小中学校がなく、地理的な課題がある。

小中学校の設置は市町村であり、市が責任を持って、域内の子どもたちを教育する。常陸太田市の子供たちには、常陸太田市が責任を持つ。国内では、村同士の話し合いで学校を運営している例もある。

(意見) (水木学区)

柔軟にできるようになればいいと思う。常陸太田市も子どもが少なくなっているので、そのような形も考えていいのではないかと思います。

(事務局)

中里小中学校は、市内どこからでも通えるという取組（小規模特認校

制度) をしている。約半数の子どもたちが、中里小中の学区外から通っている。特殊な事情がある学校で取組むもので、全ての学校でできるものではない。

(意見) (水木学区)

この基準どおりにしようとする、小学校がずいぶん減ってしまう。今2学級あっても減ることは目に見えているので、1学級当たりの人数を減らして学級数を維持してほしい。

登下校中の友達とおしゃべりや地域の人たちとの交流なども、子どもたちにとっては大切だと思う。統合になってスクールバスを運行するようになると、無味乾燥な感じがする。

(教育部長)

統合になる場合は、歩ける範囲で考えたい。機械的な統合はしない。さらに減ってしまったときは、スクールバスを前提に広域で考えていかなければならないかもしれない。

(質問) (水木学区)

統合には予算が必要と思うが、統合前後の経費の試算はしているか。どのくらい市民の負担になるのか。

(事務局)

個別の計画ができてみないと分からない。

(意見) (水木学区)

スクールバスを運行すればお金がかかるので、経費が減ることはないだろう。増える方向だと思う。

(事務局)

適正配置を進めることによって、極端に増えるということはないと考えている。

(教育部長)

学校によっても維持経費は異なる。1校の建替には、約20億円かかる。例えば、統合せず将来に建て替える場合、2校で40億円かかることを、統合した場合は1校分が減る。広域に統合ということになり、スクールバスを運行すれば、その分の経費は新たにかかることになる。個別の学校ごとに考えていかないと、経費の増減は分からない。

(質問) (水木学区)

イニシャルコストとしては何年後かには減るが、ランニングコストは現状維持か微増ということか。

(教育部長)

一時的にイニシャルコストがかかっても、ランニングコストは少なくなると考えている。

(質問) (水木学区)

子育て世代は子どもへの助成制度なども考える。家を建てる時期でもあるので、学校のことは気になる。市として、子育て世代を集める施策はあるか。

(事務局)

少子化対策や人口減少への対策には取り組んでいる。

(教育長)

子どもを産み育てようとしている人たちが、最も望むことはどのようなことか。教育に携わるものとして、子どもたちの声があふれる町にしたいと思っている。それが最も望んでいることでもある。

(質問) (水木学区)

台原中と金沢小は一貫校になり、小学校跡は老人ホームになると地元では言われている。具体的な予定はあるか。

学校に勤務しているが、基準としている学級数は理想的で、ぜひ、そうしてほしいと思っている。

教科書が大きくなったのに合わせて机が大きくなり、机の間を歩けないくらい教室が狭い。学級の定員を変えられないか。

近所の人と交流しながら帰ってくることも必要だと思うが、小学生に4 kmは長い。

(教育部長)

台原中・金沢小の件については、これから考えることである。この検討を始める前から噂があり、教育委員会にも問い合わせがある。そのようなことは誰も言っていない。子どもが少なくなってきた、不安から噂が立つのだろう。

学級の人数の基準を引き下げることは、市の単独では難しい。

現在、最も長い距離を通学している小学生が2.8 km程度である。それを超えないようにしたい。時代、地域によって車の量などの交通事情も違う。安全を第一に考えていきたい。

以上